

なかなかの森ダムサポート活動

徳島県立那賀高等学校では、森林環境保全の重要性や森林が担う公的な機能の知識を深めてもらうため、実際に自分たちの手で植樹を実際に体験する「なかなかの森ダムサポート活動」に取り組んでいます。

このような高校生の森林環境保全活動を側面からバックアップするため、「みなみから届ける環づくり会議」では、下草刈りなどの補助や広報活動を行うなど、那賀高等学校を応援しています。

平成3年度実施状況

と き 令和3年11月16日（火）

参加者 徳島県立那賀高等学校生徒ら 約30人

内 容 ①実際に学ぶ

水源地への地元広葉樹苗木の植樹・樹木ガードの設置するほか、なかなかの森の自然を実際に歩いて視察。（植栽樹種：トチノキ、カウ、ヤマザクラ、イヤカエデ、ミズメ：計50本程度）

○植樹場所 那賀郡那賀町小仁宇の町有地（わじき工業団地内）

○講師 「徳島県森の案内人ネットワーク」会員 田中貴代氏

②講演で学ぶ

○テーマ 「山のお宝を生かす」

○講 師 亀井林業・社長 亀井裕人氏

○場 所 徳島県立那賀高等学校

～参加した生徒の感想～

○自分たちが植えた木が美しい樹木に育って欲しいです。

○休日には、祖母の農業を手伝って、果樹の手入れや収穫作業をしています。今回の経験が将来の果樹の生産に活かされればいいなと思いました。

○足元が悪い斜面での植樹は大変でしたが、自然の中でからだを動かしての活動は気持ちよくて楽しかったです。

○先輩が植えた木の樹木ガードが壊れていましたが、今回修理もできて、まだまだ利用できるようになったのでよかったです。